



真崎小授業スタンダード（教師主体の授業から、児童主体の授業へ）（R7.8.29更新）

児童生徒が自己存在感を甘受し、安心して学ぶためには、教師が一方向的に説明する授業から、授業のねらいにふさわしい自己決定できる場をとりいれた「児童主体の授業」づくりへと転換することが大切です。授業の土台となる言語環境(教師の言葉づかい、板書、掲示物、ICTの活用等)を整備し、各教科・領域の特性に応じた言語活動・表現活動の充実を図りましょう。※教師は伴走者(ファシリテーター)

支援のポイント

「ちょっと難しい問題にチャレンジ」

- ・「何が難しいのか」という困難の原因となる「かべ」を分析して、それを乗り越えるために必要な自分（たち）の目標を定める。
- ・既習の活動や体験を基に見通しや困難を乗り越える計画を考える。
- ・試行錯誤や練習を繰り返し、困難を乗り越えようとする。
- ・困難を乗り越えようとした過程を振り返って、困難を乗り越えられない原因や問題点を明らかにするとともに改善案を考える。

どんな見方・考え方を高めるのか、「思考方法・表現」を基に、児童の発言をキーワードで想定し、児童の言葉を **ほめて** 育てる。

思考方法	「話す・かく」における思考表現
着目	～に目をつけると、～の点から、観点を決めると
順序	まず、次に、〇つは、そして、さらに、最後に
比較	くらべると、同じ（ちがう）ところは、相違点
関係付け	あわせると、つなげると、くっつけると
具体	たとえば、例を挙げると
共通	同じ、似ている、きまり、まとめると、つまり、共通点
類推	だったら、前は～だったから（ので）、今回は～
理由	だから、理由は、なぜかという、けれど、だって
発展	じゃあ、さらに、付け加えると
仮定	もしも、～だったら、かりに、あえて
よさ	はやい、かんたん、せいかく（な方は～）日常的に使用
審美	うつくしい、きれい、すっきり、すてき
多面的	事象を別の側面から ～の面から見てみると
多角的	時間軸、立場 昔は～だったけど、～の立場で考えると
単位	～のいくつ分、～をもとにすると、まとまりで見ると

【学ぶことに挑み続ける子どもを育む鍛ほめアンケートより最も育てたいターゲット指標】

- 【項目1】授業では、課題の解決に向けて、自分で考え進んで取り組んでいる。
- 【項目8】自分にはよいところがあると思う。
- 【項目16】自分で、目標や計画を立てて勉強している。
- 【項目17】難しい問題でも、いろいろなやり方を考えて取り組んでいる。
- 【項目18】いろいろなことが知りたいので、学校の勉強だけでなく家でも勉強している。

学習過程

目標設定の活動

挑む活動

振り返り・認め合う活動

課題をつかむ

めあてをきめる

見通しをもつ
(方法・内容)

自分の考えを
話す・かく

自分の考えを見直し、
付加・修正・強化する

まとめをする

振り返りをする

支援

教師の支援

「かべ」の設定

- 教科書の問題を生活に根ざした問題にアレンジして提示する。
 - 生活科や総合的な学習の時間、特別活動で取り組んでいる教材
 - 教科書の問題を生活に根ざした問題にアレンジして提示する。
 - 日常生活との関連・身近な話題を少し紹介
 - 教材の部分提示（隠して提示、少しずつ提示）
 - 比較の問題を提示。（似て非なるもの）
 - 条件不足・条件過多（□を使った問題提示）
 - 教材を徐々に提示。瞬間提示。見せる時間・部分を限定する
 - お話にするなどストーリー性のある問題状況の設定の工夫
 - インターネット画像やタブレットカメラを使った問題提示（ICT）
 - デジタル教科書の活用（ICT）
 - 実物・画像・動画で提示する（ICT活用）
 - 問題をゲーム形式で提示（ゲーム化）
 - ちょっとがんばれば解決できる課題に挑戦しよう！
 - 全員で「めあて」をきめる
 - スプレッドシートでグラフ作成し、実態や傾向をスライドで提示
- 見通しについて話し合う場を設定する。（解決への見通し・共有）
- 教科の特質に応じた内容や方法を自己選択・自己決定させる。
例：図表に描く、タブレット端末で調べる、具体物を使う 等
- 教科の特質に応じた根拠、理由、自分の考えの3点セット

話す・かく

- 見方・考え方を発揮された姿を具体で想定しておく。
- 教師とのやりとりだけでなく、子ども同士のかかわり合いの中で、一人ひとりの見方や考え方を広げ深められるよう意識する。
- 机間巡視で学力層（C D層）に応じた支援する。
- 意図的指名で子ども達（C D層）の考えを黒板に書き、ほめる。
- 粘り強く取り組む姿をほめる。（考えを見直す時間の確保）
- 一人ひとりが自己決定し個に応じた内容・方法・道具で追究する。
- 子どもを見取り、状況に応じて適切に支援する。（指導と評価）
- 問い返しの発問（共感・明確化・情報提供・客観視・共に追究）
- ペア、グループ等でタブレットを囲みながら考えをつくる（ICT）
- 写真をとって、ペアで説明。（ICT）
- ロイロノートで個々の考えを把握し意図的指名や友達のを説明ICT）
- デジタル教科書の拡大機能をヒントカードとして活用（ICT）

方法価値

- 振り返りの視点を提示し、子ども達が自己決定し、かく活動。
 - ・わかったこと、できるようになったこと、気づいたこと
 - ・友だちの考えでよかったこと、アドバイス
 - ・これから考えてみたいこと、解決に役立ったアイデア
 - ・成長した点やうまくいかなかった点
- 失敗から学ぶ。
- ふりかえり文をかく。その場で集め、即時評価する。
- タブレットカメラで写真を撮って蓄積（ICT）
- ロイロノートにふりかえり文を入力する。（ICT）

【川崎町アクション3.0を基にした授業中の“振り返りポイント”より】

- ①多様な考えが発揮できる場、自己決定できる場の意図的な設定
- ②学習が遅れがちな児童の活躍できる場の保障
- ③誤答等、児童の言動を大切に学習の実践

3つの振り返りポイントは、学習展開のどこに位置付けても構いません。しっかりとこの視点を意識しながら、授業を行っていきましょう!!
研究授業の際も、指導案にこの**三つの視点を明記**すると、教師の支援がより明確になりますね。